



令和4年4月28日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部  
総務広報課長

### 宮崎大学のトピックス（4月分）の配信について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として日々様々な活動を行っております。その活動の概要は、大学のウェブサイト上にトピックスとして掲載し、幅広く地域の皆様に見ていただけるようしているところです。

そのトピックスを月毎にまとめたものを報道機関の皆様にお配りし、大学の活動を知っていただくとともに、記事として取り上げていただき、より地域の皆様の目に届けたいと思っております。

つきましては、是非一読していただき、取材していただくようお願いいたします。取材にあたっての関係部署との調整・取り次ぎ等は総務広報課広報係にお申し付けください。

敬具

① 発信元

宮崎大学企画総務部総務広報課

TEL : 0985-58-7114 FAX : 0985-58-2886

## 宮崎大学最近のトピックス（令和4年4月分）

1. 「地方創生に資する地方公共団体の外国人材受入関連施策等について」において「宮崎 - バングラデシュ・モデル」がクローズアップ
2. 令和4年度宮崎大学入学式を挙
3. テゲバジャーロ宮崎応援バスツアーの様子がクラブの公式チャンネルで公開
4. 令和4年度前学期の授業を開始
5. 産経大・南九大・宮崎大が合同記者会見を実施
6. 大学拠点接種での追加接種（職域追加接種）実施
7. 宮崎大学が国費留学生優先配置大学として採択
8. 学生自治会長が宮崎大学長を表敬訪問

## 1. 「地方創生に資する地方公共団体の外国人材受入関連施策等について」において 「宮崎 - バングラデシュ・モデル」がクローズアップ

内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局が自治体に向けて配付の資料「地方創生に資する地方公共団体の外国人材受入関連施策等について」(2022年3月16日付)において、本学が宮崎市・国際協力機構(JICA)・地域の民間企業等と連携してきた「宮崎における産学官連携高度ICT人材地域導入事業(宮崎 - バングラデシュ・モデル)」がクローズアップされた。



本事業は、若年層の県外流出やICT人材の不足などが背景となって2017年に開始されたもので、JICAの現地人材育成事業「B-JET」と、宮崎における留学 - 就職受入れ事業「JIP」による、バングラデシュICTエンジニアへの日本語教育、キャリア教育の提供、留学・就職支援の人材育成・教育を行っている。

2017年以降、バングラデシュからのICT人材を265名受け入れ、186人が日本企業に就職し、うち54名が宮崎県内の企業に就職をしている。また、2019年以降に市内に立地したICT企業のうち4社がこの「宮崎 - バングラデシュ・モデル」を利用するために宮崎市を選定している。

宮崎大学では、今後もこのモデルを成熟させながら展開し、地域の活性化と国際化の両輪を強力に牽引していくことができるように取り組んでいくこととしている。

## 2. 令和4年度宮崎大学入学式を挙行

2022年4月4日(月)、宮崎市のフェニックス・シーガイア・リゾートシーガイアコンベンションセンター4Fサミットホールにおいて、令和4年度宮崎大学入学式を挙行し、学部・大学院などに1,410人の新入生が入学した。



全ての入学生が出席する対面式で入学式を実施するのは3年ぶりのことで、残念ながら、新型コロナウイルス感染症対策として、保護者の方の出席をお断りいただくこととなったが、インターネットを用いたライブ配信により、多くの方に視聴していただいた。

5学部の新入生1,062人の内訳は、県内出身者が約37%に対し、県外等出身者が約63%を占め、男女比としては、約42.5%が女子学生となり、女子学生の割合は前年の38.5%と比較して4ポイントの大幅上昇となった。

### 3. テゲバジャーロ宮崎応援バスツアーの様子がクラブの公式チャンネルで公開

宮崎県初のプロサッカークラブ「テゲバジャーロ宮崎」（二村恵太代表取締役）と宮崎大学地域資源創成学部 企業マネジメントコースの丹生晃隆研究室（技術経営・ベンチャー）は、2019 年度より「宮大×テゲバ交流イベント」を開催している。

2021 年 11 月 14 日に開催した「テゲバジャーロ宮崎応援バスツアー」の様子が、テゲバジャーロ宮崎の公式チャンネルで公開された。



### 4. 令和 4 年度前学期の授業を開始

令和 4 年 4 月 11 日（月）、宮崎大学では前学期の授業を開始し、今春入学したばかりの 1 年生にとっては、最初の講義となった。前学期初日から対面式で講義を実施するのは 3 年ぶりとなる。

本学では、登校前の検温や体調等の確認、マスク（不織布マスク推奨）の着用及び手指消毒・手洗い、換気の徹底、座席指定や教室収容定員の 7 割未満での講義実施など独自の基準を設けて感染対策を徹底し、引き続き原則対面授業を行い、状況によってはオンライン形式での実施などに切り替えることとしている。



### 5. 産経大・南九大・宮崎大が合同記者会見を実施

令和 4 年 4 月 15 日（金）、宮崎大学は文部科学省事業である「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」が採択されたことを受けて、同じく採択された南九州大学と宮崎産業経営大学と合同記者会見を実施した。

本事業は、デジタル社会への環境変化



に対応した資質・能力を涵養するため、DX 教育設備を活用した教育カリキュラム開発や実験・実習の高度化など、「デジタル×専門分野」の教育を進め、我が国の産業界等のデジタル化・高付加価値化をけん引する高度専門人材育成を加速することを目的とするもの。公募には、全国の国公立大学・私立大学・短期大学・高等専門学校から 99 件の申請があり、39 件が採択され、本県からは 2 件が採択された。

宮崎大学が申請した構想「農工連携による農林畜産業を中心とした地域産業 DX をけん引するデジタル活用高度専門人材育成」は、農学部と工学部の学部間連携による事業であることが特徴で、本県の基幹産業である、農林畜産業を中心とした地域産業の課題解決を DX により実践し、地域の DX 化をけん引できる高度専門人材を輩出することを目指す。また、南九州大学と宮崎産業経営大学が合同で申請した構想「産業界、地域社会と連携するデータ駆使型 6 次化スマートファクトリーDX 人材育成」は、大学間連携による事業であることが特徴で、南九州大学健康栄養学部食品開発科学科の強みである食品開発・分析・加工などにおける分野と、宮崎産業経営大学の強みであるマーケティング分野などを教育に生かし、食品開発時の加工・分析による「価値」を提供すると同時に「経営」発展のためのマーケット分析までを一貫して行える人材の育成を目指す。

宮崎大学では、今後、15 種類の高度な機器を導入し、後学期から実習などで本格的に進めていくこととしていて、鮫島浩学長は「3つの大学が連携して本県の DX を主導できる人材を育成していきたい」と抱負を述べた。

## 6. 大学拠点接種での追加接種（職域追加接種）実施

宮崎大学では、職域での新型コロナウイルスワクチン追加接種（3 回目接種）を実施する政府の方針を受け、令和 4 年 4 月 16 日（土）から、330 記念交流会館コンベンションホール（木花キャンパス）において本学及び県内高等教育機関に在籍する教職員・学生等を対象とした職域追加接種（3 回目接種）開始した。



今回の職域追加接種（3 回目接種）は、3 日間に分けて実施され、2 回の接種を終え 3 回目接種を希望する約 1,300 名が接種を受ける予定となっていて、初日となった令和 4 年 4 月 16 日（土）は 484 名が接種を受けた。

## 7. 宮崎大学が国費留学生優先配置大学として採択

宮崎大学が、文部科学省の2022-2024年国費留学生優先配置大学として採択された。東南アジア・インドの優秀な国費留学生を、医学獣医学研究科博士課程の大学院生として毎年7名、合計21名受け入れ、循環器腎臓疾患に関連する国際プロジェクトを進めることとなる。日本と同じく、東南アジアやインドでも近年心臓疾患・腎臓疾患患者が急増し、予防・診断・治療に至る国家的対策が必要とされていることを背景に、



各国の優秀な大学院生を宮崎大学に迎え、最先端の研究に従事してもらい、自国に戻った後にリーダーとなった彼らを拠点に今後の国際的医療レベルの向上につなげることが目的。

初年度の留学生7名は、2022年10月入学予定。同プロジェクトは、宮崎大学医学部機能制御学講座循環動態生理学分野・渡邊 望 教授（女性医師）がプロジェクトディレクターとして、推進している。

## 8. 学生自治会長が宮崎大学長を表敬訪問

令和4年4月20日（水）、宮崎大学学生自治会の会長を務める板山息己（いたやま いぶき）さん（農学部森林緑地環境科学科3年）が鮫島浩宮崎大学長を表敬訪問し、4月17日（日）に実施した新生を部活・サークルに勧誘するイベントである「新歓祭」について報告を行った。



新歓祭が開催されるのは3年ぶり。学生自治会のメンバーは、2月中旬から今回の新歓祭の準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面式で実施できるかどうか予想できない状況のなか、最低でもオンライン配信はできるように準備を進めてきていた。今回、対面式に加えてライブ配信も行い、木花キャンパスと特設ステージが設置された小体育館には、数え切れないほど多くの新生が駆けつけ、以前のような活気に満ちたキャンパスが戻ってきた。

板山さんからは「正直どれだけの新生が参加してくれるのか不安でしたが、私自身が当初想定したよりもはるかに多くの参加者があって、実施して本当によかったです」と感想が述べられ、鮫島学長からも「学生の活動を全力で応援するので何かあればいつでも相談に来てください」と激励があった。

宮崎大学学生自治会は、新型コロナウイルス感染症の影響で大きく失われた学生の横の繋がりを復活させようと意気込んでおり、大学側も学生の活動を全力で支援していくこととしている。